

釣れ釣れなるままに

1983年思い出の釣行記

漁師の言い分

鹿島釣狂



☆釣行日 昭和58年10月10日
☆入釣場所 浜益港
☆釣果 砂ガレイ 21
アブラコ40cm以下 6
ガヤ 1
タナゴ 2



33歳になった。息子が3歳、娘が0歳である。この頃より釣りの記録をノートに綴るようになった。なかなか釣りに行くことは出来なかったが、隙を見つけて浜益港に向かった。

朝方から、砂ガレイが面白いように竿を揺らした。アブラコは自己最身長記録になる。防波堤から僅かな距離に穴ぼこがあるようで、その穴に仕掛が入ったときにタナゴが釣れた。始めて見る鯛に似た魚で防波堤の縁で竿を上げ下げしていると、ストンと窪みに仕掛が入っていくのが感じられる。根掛かりもするのだが上手い具合にその穴から仕掛が抜けるとタナゴがかかっていた。タナゴを持ち帰って食べてみたが美味しくはなかった。

漁船が防波堤の際を通過して出港していった。遠投していた仕掛を根こそぎ持っていかれた年配の釣り人が「馬鹿野郎！」と大声で叫んだ。漁師も大声で何か言い返したようだが何を言っているのかは聞き取れなかった。釣り人は腹立たしさから幾度も私に聞こえるように悪態をついていたが、私には漁師の方に分があるように思えた。